三重県史跡

九鬼水軍の海城

鳥羽城跡

城の石垣

本丸跡の周囲には野面積みの石垣が残存し、当時の姿を留めています。その他にも鳥羽市民文化会館裏の家老屋敷跡周辺に石垣が残っています。堀は、大半が埋められて残っていませんが、妙慶川の相橋に堀の石垣が唯一残っています。

石垣の石材は、カンラン岩と千枚岩を使用しており、これらの石材は、周辺の海岸部で採取されたものと考えられます。

戦国最強の水軍大将　九鬼嘉隆

九鬼嘉隆像
（常安寺蔵）

九鬼嘉隆は、志摩地方に勢力を伸ばしていた水軍の将でしたが、織田信長が天下統一を目指す過程で、苦心していた長島の一向一揆や、石山本願寺との戦いにおいて水軍を率いて数々の戦功を挙げました。

なかでも、天正6（1578）年の第2次木津川口の戦いで、当時としては異例の大型の鉄甲船6隻を率いて毛利水軍を打ち破り、信長の石山本願寺の攻略に大きく貢献し、その功績により鳥羽の地を賜りました。

信長の死後は豊臣秀吉に仕え、志摩3万5千石を拝領しました。

嘉隆は「日本丸」という大型軍船を建造し、文禄元（1592）年の朝鮮出兵の際にも日本丸を中心とした大船団を率いて参陣しました。

嘉隆は、家督を子、守隆に譲り隠居しますが、慶長5（1600）年の関ヶ原の戦いでは、嘉隆は石田三成側の西軍、守隆は徳川家康側の東軍に属し父子で、戦をしました。西軍の敗北後、嘉隆は、答志島へ逃れました。

守隆の決死の助命願いにより許されたのも知ることなく、嘉隆は、答志島の洞泉庵にて切腹しました。現在、答志島には嘉隆の首塚、胴塚が残っています。

絵図に描かれた鳥羽城

鳥羽城の歴代城主

初代	九鬼家	九鬼嘉隆（よしたか）	？ ～ 1597
2代		九鬼守隆（もりたか）	1597 ～ 1634
3代	内藤家	内藤忠重（ただしげ）	1634 ～ 1653
4代		内藤忠政（ただまさ）	1653 ～ 1673
5代		内藤忠勝（ただかつ）	1673 ～ 1680
6代	土井家	土井利益（とします）	1681 ～ 1691
7代	大給松平家	松平（大給）乗邑（のりさと）	1691 ～ 1710
8代	板倉家	板倉重治（しげはる）	1710 ～ 1717
9代	戸田松平家	松平（戸田）光慈（みつちか）	1717 ～ 1725
10代	稲垣家	稲垣昭賢（あきかた）	1725 ～ 1726
11代		稲垣昭央（あきなか）	1726 ～ 1794
12代		稲垣長以（ながもち）	1794 ～ 1795
13代		稲垣長続（ながつぐ）	1795 ～ 1818
14代		稲垣長剛（ながかた）	1819 ～ 1842
15代		稲垣長明（ながあき）	1842 ～ 1867
16代		稲垣長行（ながゆき）	1867 ～ 1868
17代		稲垣長敬（ながひろ）	1868 ～ 1869

鳥羽城へのアクセス

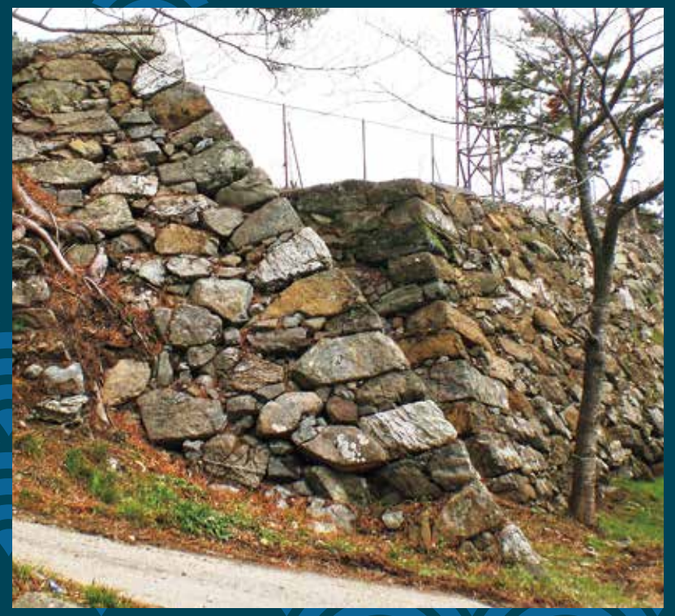
近鉄・JR鳥羽駅から徒歩10分。近鉄中之郷駅から徒歩5分。車の場合国道42号で、中之郷の交差点、もしくは鳥羽遊覧船乗り場付近の交差点を山側に曲がる。駐車場は鳥羽市役所。

■車・フェリーでお越しの場合

- 東京 ― 東名阪高速道路 約2時間30分 ― 浜松IC ― 一般道 約1時間40分 ― 伊良湖 ― 伊勢湾フェリー 約55分 ― 鳥羽
- 名古屋 ― 東名阪自動車道 約1時間10分 ― 伊勢関IC
- 大阪 ― 西名阪自動車道・名阪国道 約2時間 ― 伊勢関IC ― 伊勢自動車道 約45分 ― 伊勢IC ― 伊勢二見鳥羽ライン 約10分 ― 鳥羽
- 京都 ― 名神高速道路 約20分 ― 草津JCT ― 新名神高速道路 約20分 ― 亀山JCT ― 東名阪自動車道 約5分 ― 伊勢関IC

■航空機・列車でお越しの場合

- 東京 ― 新幹線 約1時間40分 ― 名古屋 ― JR東海／近鉄特急 約1時間35分 ― 鳥羽
- 中部国際空港 ― 高速船 約45分 ― 松阪 ― 近鉄特急 約30分 ― 鳥羽
- 京都 ― 近鉄特急 約2時間20分 ― 鳥羽
- 関西国際空港 ― 南海特急 約40分 ― 難波 ― 近鉄特急 約2時間 ― 鳥羽



立地

鳥羽城跡は、水軍の基地に適した、良港で知られる泊浦（鳥羽）の妙慶川河口部に位置し、標高40mの小山を中心に築かれた平山城で、南方山頂部に設けられた本丸を中心に、自然地形を利用して雛壇状に曲輪を配しています。

築城主

織田信長や豊臣秀吉のもとで、水軍大将として活躍した九鬼嘉隆により文禄3（1594）年に竣工したとされています。

鳥羽城の構造

鳥羽城は、大手門は海に開いた水門で、内陸側には堀を巡らせ、四方を海に囲まれた「海城」でした。

外曲輪を含めた総面積は32,280坪（約106,500㎡）で、内陸部からは藤口門、横町口門と相橋口門の3つの橋で連絡し、天守をはじめ、13の櫓が廃城時にはありました。

城内は、絵図によれば、本丸の北西寄りに3層の天守があり、南側には本丸御殿がありました。内藤忠勝の時代の延宝8（1680）年に内藤家が断絶となった際の作事書に、天守の規模は5間×6間で、高さ約19.5mであったとされています。

城主の変遷

城主は築城主の九鬼氏が御家騒動により、国替えとなった後、寛永10（1633）年に譜代である内藤忠重が城主となりますが、その後、内藤氏が江戸で殺傷事件により領地没収となると、幕府直轄地を経て、土井―松平（大給）―板倉―戸田（松平）と城主の交代が相次ぎます。享保10（1725）年に稲垣氏の入封により、ようやく安定し、幕末まで続くことになりました。

城の終焉

明治2（1869）年の版籍奉還により、城地は官有地となり、明治4（1871）年には天守をはじめ城郭の建物、城門、櫓等の建物は取り壊されました。

また、明治9（1876）年には、内陸の蓮池が埋め立てられ、海側も造船所が造られたため、城の遺構は取り壊されました。

昭和に入ると、本丸より一段下がった南には旧鳥羽小学校、家老屋敷跡の南にも鳥羽市役所、市民文化会館が建設されました。昭和40（1965）年に本丸跡と家老屋敷跡の2箇所が三重県の史跡に指定されました。

編集　鳥羽市教育委員会

発行　鳥羽市観光協会

〒517-0022 鳥羽市大明東町1-7　TEL 0599-25-3019

URL　http://www.toba.gr.jp/

❶ 相橋

武家屋敷から鳥羽城に上がる武士が使った橋で、城の陸側の玄関口でした。古来は志摩国と伊勢国の国境でした。

❷ 家老屋敷跡

城内の家老屋敷があった場所です。周囲には野面積みの石垣が残ります。

❸ 家老屋敷裏の石垣

近年発見された石垣です。

❹ 本丸南の石垣

本丸の南側にも一部石垣が残っており、水抜き穴が確認できます。

鳥羽城縄張図

鳥羽城の天守

❺ 三の丸広場

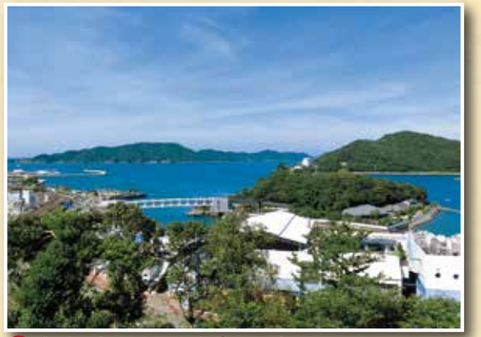
三の丸跡は、城の玄関口として整備されました。現在の近鉄の線路と国道部分に二の丸御殿があったと考えられます。

❻ 本丸西側の石垣

城の中心部で最も良好に石垣が残存しています。

❼ 本丸跡

小学校の運動場として使われていたため、平坦となっています。この場所に３層の天守と本丸御殿がありました。



❽ 本丸跡からみた鳥羽湾

本丸からは鳥羽湾が一望できます。奥にみえる島が答志島で、嘉隆の胴塚、首塚があります。